

# 「港の風景」写真コンテスト 2024

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。

今年で33回目の本コンテストには、584点の応募がありました。いただいた作品に対して令和6年10月10日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定いたしました。



最優秀賞  
国土交通大臣賞  
藤井昭浩 下田港  
ミッドナイト

都会とはまた違った光にあふれた夜景がとても新鮮です。下田港の南西部にあるお茶ヶ崎展望台から見下ろした景色でしょうか。右下に見えるのは和歌ノ浦、その後ろは赤根島、太平洋のようです。かなりの距離感ですが、それでも画面の下半分。下田海中水族館のアクアドームペリー号から漏れる光、沖の漁火とその反映。そして画面の上半分を埋めつくす星々の輝き。デジタルカメラの機能を生かし、人間の視覚を超える映像を生み出しました。



## 総評

本コンテストの対象となる被写体はほとんどが屋外。昨年よりもレベルが上がったかのような酷暑の影響がかなり出るのでしたと思われましたが、通年の作品募集のため、マイナスの傾向は見られませんでした。ただ、夜間に撮影した作品が多かったのは、その影響かも知れません。それにはまた、デジタルカメラならではの機能が関係しているようです。

もともと夕方から夜にかけては光の変化が美しく、風景写真ではゴールデンタイム。高感度撮影が得意、暗部の描写に優れているという基本的なデジカメの性能に加えて、星や花火などの専用ともいえる撮影モードが搭載され、光的に描けるようになりました。その能力は肉眼以上、それが作画にうまく活かされています。

また理由は分かりませんが、高所からの

俯瞰撮影がやや目立ちました。日常の当たり前の視点に対する展望台から見渡す風景の新鮮な感動。俯瞰撮影の魅力で新たな作品を、ということでしょうか。

テーマ限定のコンテストなので似たような作品が多くなりがちですが、実は作品内容は徐々に確実に変化しています。王道で行くか、新しい被写体や写し方を試すか、来年も楽しい作品の応募を期待しています。



中村光雄  
和歌山下津港  
護岸工事  
国土交通省港湾局長賞

大規模な港湾の工事が、シンプルにダイナミックに描かれています。広い範囲にまたがる和歌山下津港のどこかで行われていた工事。扱う部材が大きく重過ぎるので人手介入の余地なし、といった工事の様子が描かれています。主被写体となるのは、赤と白の塗色が快晴の青空に映えて美しい巨大なクレーン。重そうなケーソンを吊り下げて傾いだように見える姿形に臨場感が。作業を見守る人々も、広い海のスペースを埋める添景として効果的です。



「港の風景」写真コンテスト2024



佐知浩幸  
白杵港  
みんなで社会見学  
(公社)日本港湾協会会長賞



小さな子供たちの白杵港社会見学。お揃いの服に麦わら帽子の園児？児童？の側にはガイドさん、引率の先生、ヘルメット姿の造船所の方と揃った前景。その奥には、大型クレーンと進水式間近らしい船体。臨場感のある群像スナップとして生き生きと描かれていますが、背景がとても印象的です。特殊な液体化学製品専用のケミカルタンカーの独特な形と、塗装したばかりの鮮やかな朱色の船体が、雲一つない青空に映えて浮かび上がっています。

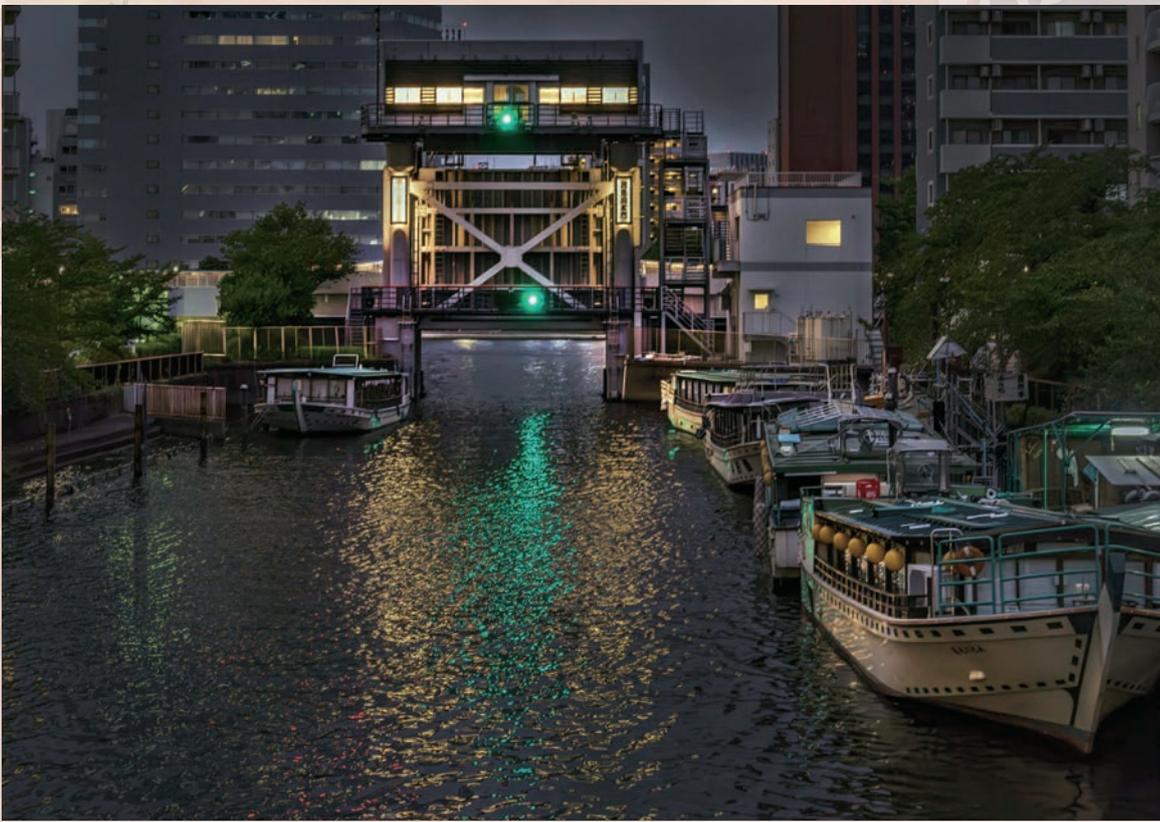




港湾海岸防災協議会会長賞

小森一美 月島川水門（東京港）

静かなる月島川水門



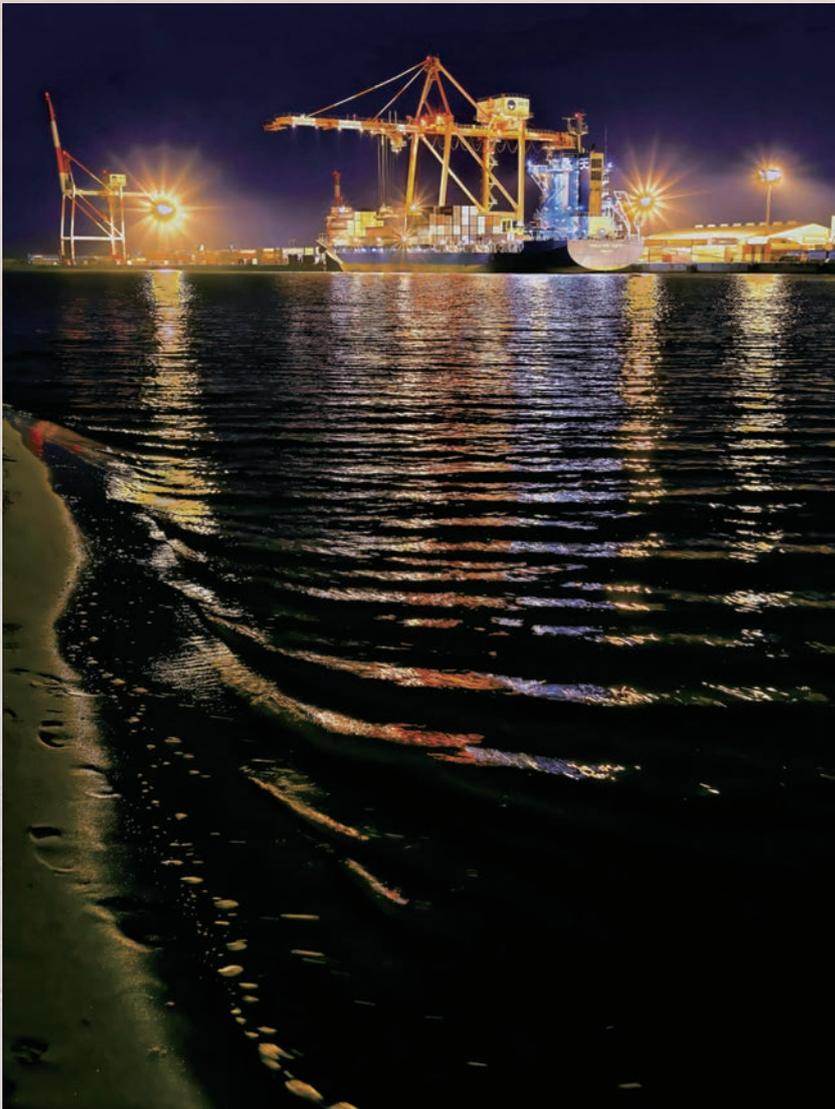
前回、東雲水門の作品が優秀賞でしたが、今回はより上位に入賞です。勝鬨橋の近く、月島川と隅田川を隔てる月島川水門。隅田川テラスを通れば間近に見られますが、受賞作は西仲橋側からの撮影。都会の運河の風景を過不足なく切り取っていますが、デジタルカメラならではの独特な描写モードが生かされています。夜間ではなく明かりが灯る頃を選び、イラスト風のエッジの利いた描写とすることで、その光、薄暮の情景が見事に表現されました。



部門賞「みなとの活動」

小形俊幸 新潟東港

水面の輝き



コンテナターミナルのある西埠頭の夜間作業風景でしょうか。タイトルどおり、光の反映が波のように寄せている足元までフレーミングしたことで、新鮮な画面となりました。強烈な夜間照明が海面に反映して美しい光の帯に見える風景は、これまでも今回も数多く応募されていますが、ひと工夫加えたことが受賞に繋がりました。



新居輝雄  
四日市港  
出初式  
部門賞「防災」



四日市市消防出初式のアトラクションの中の一斉放水訓練の様子でしょうか。四日市コンビナートを背景に放水する海上保安庁の巡視艇「あおたき」が主被写体として描かれています。広く状況を写すのではなく、美しく端正な新造艇を主被写体にすることで、快晴の青空の下、盛大に行われたであろう一斉放水をイメージできます。



平野昌子  
横浜港  
シーサイドウェディング  
部門賞「賑わい」



横浜港大さん橋の屋上広場、ウッドデッキが会場となった結婚式。出席者の祝福の中、新婦が赤いウェディングロードを歩き出そうとする瞬間が高所から俯瞰されています。結婚式が主題とすれば一見散漫に見える画面ですが、作者の狙いはこの空間そのもの。なぜか赤い衣装が目立つ、港の幸せなひとときが記録できました。

「港の風景」写真コンテスト2024



部門賞「自然・歴史」  
稲葉太一郎 北木島

のどかな日



かつて、瀬戸内の三大銘石「北木石」の産地として栄えたという北木島の一隅。これは小さな入江なのでしょうか。何気ない水辺の光景なのですが、船着場の階段や、やや乱れた石積みの岸、一艘だけ舫った小舟、深い水の色、音の消えたような空気感までが、地名から連想するイメージに相応しい佇まいに思えてきます。



優秀賞  
小城原淳 横浜港

港の彩華



25分間に2万発の花火を打ち上げるという「みなとみらいスマートフェスティバル」の夜の賑わいが、シャープな描写で表現されています。コスモワールドの大観覧車や半月形のホテルといった「らしい」ランドマークに花火を重ね合わせた構成が見事。手前の見物客の「暗さ」と密度が花火大会を引き立てています。

「港の風景」写真コンテスト2024



優秀賞

空と海が見守る港の一日

工藤嘉晃 神戸港



埠頭を俯瞰・遠望する風景ですが、港の一部分が主役ではなく『或る日の神戸港』というイメージが表現されています。この作品で一番特長的なのは、淡くてフラットな青味がかったプリントの仕上がりでしょう。タイトルどおりの海と空、特に帯のように画面上部を覆う雲が脇役としてその印象を助長しています。



優秀賞

大夜泳開始

山口正明 野島漁港



「白浜海女まつり」のハイライト「海女の大夜泳」。わずかな照明によって白衣を黄赤色に染めた海女たちの姿が、高感度による望遠撮影によつて的確に切り取られています。順番に姿勢を低くしつつ海に入っていく海女たちの姿、それぞれの表情がまるで絵画のように重厚にドラマチックに表現されました。

「港の風景」写真コンテスト2024



優秀賞

川崎信義 佐世保港

港の明かり



海上自衛隊の基地もある佐世保港に、13万6千トンのクルーズ客船「アドラ・マジック・シティ」が入港。その華やかな光が賑わいを感じさせる港の夜景を、高所からの俯瞰撮影によって程よくフレーミング。この撮影位置を選んだことと、画面全体をブルー基調にしたことで、街・港・客船の灯りが強調できました。



優秀賞

有田勉 宮古港

大きくなって戻ってきて



子供達が主体の放流行事の一コマでしょうか、撮影者が水に入って被写体と向かい合ったことが最大の成功要因でしょう。臨場感にあふれたスナップとなりました。さらに十分接近したことで、バケツを持つ子、見守る人の表情が大きくはっきりと描写できました。また、魚の流れ出すタイミングを的確に捉えています。

「港の風景」写真コンテスト2024

成岡勲  
クルーズ船出港  
入選



小池基夫  
コンテナターミナル景  
入選



古川佐代美  
進水作業完了  
入選



小城原淳  
出航を待つ  
入選



入選



西山昌敏

シャシーの倒立  
入選

松田裕次  
私たちのLast Meeting  
入選



中川雄喜

黄昏のフェリー港  
入選



入選

長谷薫

入選  
歓迎しばしお待ち下さい



林正和

入選  
晴天の港大橋



山口健一

入選  
港の力持ち



原裕延

入選  
富士を望む港



堀内勇

入選  
日本のアマルフィ



宇田川憲一

入選  
着岸準備中



道信タケオ

入選  
都市の漁港



長友逸郎

入選  
空からの港



「港の風景」写真コンテスト 2024

端雅利

入選  
消防ページェント



藤田文子

入選  
歴史ロマンを感じて



河野サエ子

入選  
海を渡るみこし



戸崎安司

入選  
夜明けの漁



柳堀利和

入選  
港で盆踊り



石山正昭

入選  
夕暮れ時



西山栄

入選  
砂の芸術を囲んで



雪江博

入選  
花咲く港



「港の風景」写真コンテスト 2024

入選

入選  
山本健太郎  
華やかに



入選  
大島正美  
港のクリスマス



入選  
柴田康彦  
よいしょ!!



入選  
宮本健吾  
湾を染める大輪



入選  
浅田久  
仕事を終え停泊中



入選  
山崎泰  
世界遺産になった金積み出し港



入選  
有田勉  
網洗い



入選  
早川幸夫  
歓迎式典



「港の風景」写真コンテスト2024

入選  
明野敏行  
干しタコづくり



入選  
竹下邦茂  
コンテナヤードの華



「港の風景」写真コンテスト 2024

入選

- 西山昌敏「シャーシの倒立」(横浜港)
- 松田裕次「男たちのLastMeeting」(白杵港)[大分県]
- 中川雄喜「黄昏のフェリー港」(八幡浜港)
- 成岡勲「クルーズ船出港」(清水港)
- 小池基夫「コンテナターミナル景」(東京港)
- 古川佐代美「進水作業完了」(博多港)
- 小城原淳「出航を待つ」(横浜港)
- 林正和「晴天の港大橋」(大阪港)
- 原裕延「富士を望む港」(横浜港)
- 宇田川憲一「着岸準備中」(東京港)
- 長友逸郎「空からの港」(神戸港)
- 長谷薫「歓迎、しばしお待ち下さい」(和歌山下津港)
- 山口健一「港の力持ち」(函館港)
- 堀内勇「日本のアマルフィ」(雑賀崎漁港)[和歌山県]
- 道信タケオ「都市の漁港」(東京都中央区佃)
- 柳堀利和「港で盆踊り」(釧路港)
- 石山正昭「夕暮れ時」(今治港)
- 西山栄「砂の芸術を囲んで」(勿来海岸)[福島県]
- 雪江博「花咲く港」(横浜港)
- 端雅利「消防パージェント」(東京港)
- 藤田文子「歴史ロマンを感じて」(小樽運河)
- 河野サエ子「海を渡るみこし」(杵島)[山口県]
- 戸崎安司「夜明けの漁」(木戸浜)[千葉県]
- 大島正美「港のクリスマス」(横浜港)
- 宮本健吾「湾を染める大輪」(広島港)
- 山崎泰「世界遺産になった金積み出し港」(大間港跡)[新潟県]
- 早川幸夫「歓迎式典」(名古屋港)
- 山本健太郎「華やかに」(広島県尾道市因島)
- 柴田康彦「よいしょ!!」(神戸港)
- 浅田久「仕事を終え停泊中」(水島港)
- 有田勉「網洗い」(宮古港)
- 竹下邦茂「コンテナヤードの華」(大阪港)
- 明野敏行「干しタコづくり」(二見港)[兵庫県]

国土交通大臣賞

藤井昭浩「ミッドナイト」(下田港)[静岡県]

国土交通省港湾局長賞

中村光雄「護岸工事」(和歌山下津港)

日本港湾協会会長賞

佐知浩幸「みんなで社会見学」(白杵港)[大分県]

港湾海岸防災協議会会長賞

小森一美「静かなる月島川水門」(月島川水門(東京港))

部門賞「みなとの活動」

小形俊幸「水面の輝き」(新潟東港)

部門賞「防災」

新居輝雄「出初式」(四日市港)

部門賞「賑わい」

平野昌子「シーサイドウェディング」(横浜港)

部門賞「自然・歴史」

稲葉太郎「のどかな日」(北木島)[岡山県]

優秀賞

- 小城原淳「港の彩華」(横浜港)
- 工藤嘉晃「空と海が見守る港の一日」(神戸港)
- 山口正明「大夜泳開始」(野島漁港)[和歌山県]
- 川崎信義「港の明かり」(佐世保港)
- 有田勉「大きくなって戻ってきて」(宮古港)

主催

(公社)日本港湾協会  
港湾海岸防災協議会

後援

国土交通省

協賛

- (一社)日本旅客船協会
- (一社)ウォーターフロント協会
- (一社)日本外航客船協会
- (一社)日本マリーナ・ビーチ協会
- (一財)みなと総合研究財団
- (一財)港湾空港総合技術センター
- 富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員(順不同・敬称略)

- 齋藤 潮 <東京工業大学名誉教授>
- 廻 洋子 <敬愛大学特任教授>
- 松野正雄 <写真家>
- 逸見 仁 <写真家>
- 西村尚己 <写真家>
- 白井正興 <国土交通省港湾局海洋・環境課長>
- 上原修二 <国土交通省港湾局海岸・防災課長>
- 大脇 崇 <(公社)日本港湾協会理事長>